

## 2007 年度西洋文化史概説 1-51

### 第一講 農耕文化の起源

農耕文化は環境の変化に対する人類の適応の例。

地球上各地の環境の多様性に対応して、農耕文化も多様であり、それぞれのコアとなる地域から環境的に類似した周辺地域に農耕文化は伝播していく。

西アジア：比較的乾燥した、温暖な地域

麦とヒツジやヤギ、ブタの飼育を伴う農業文化  
地中海周辺地域に伝播

中国南部：モンスーンに伴う湿潤で、高温な地域

稲（水稲）とブタやイヌ、ニワトリなどの飼育を伴う  
東南アジアから、朝鮮半島、日本に至る太平洋沿岸のモンス  
ーン地帯

### 農耕文化発生の条件

近くに後に栽培種化されたり家畜化されたりする野生種の  
動植物が存在すること

従来の伝統的な経済の継続が困難に陥っていること→移住  
かその場に留まるかの選択に迫られていること

何らかの深刻な環境変化が生じていること

気候条件の変化など、自然環境の変化

人口増加による人口圧力の増加

大規模な自然環境の変動はかつて一度生じている

今から1万年程前＝氷河期から後氷期への移行期

気温の上昇・降水量の変化・植生の変化（ステップ→森林地帯→サバ  
ンナ）

地球全体の気温上昇による中緯度地方における「極前線」の上昇に伴

## う環境変化

### 環境変動のデータ

地球環境は決して定常ではなく、規模の程度の差はあるが急激な変動を繰り返してきている。

理化学的データ：

- 1) 酸素 18: 中緯度地方では、数値の増加は温暖化、減少は寒冷化。
- 2) 炭素 14: 過去の太陽活動の変動を記録している。

過去 5000 年間に 12 の極大・極小

温度計等の機器によって観測記録が残されているのは 1640～1710 年にかけての「マウンダー極小」と、1780 年以降の「モダン極大」だけである。

極小期になると、地中海地域は寒冷化だけでなく、夏の晴天が短く、冬の長雨が続くことになる。逆に極大期になると、夏の乾燥した高温な晴天が続き、冬の雨が短く・不安定になる。

北欧では、極小期になると、夏に低気圧前線が上空に留まり寒い夏と長雨が続く。こういったことは魔女の絵を描いたエッチングなどの背景に描かれる嵐の雲などによって確認できる。

- 3) 花粉：過去の植生の変化を記録。
- 4) 動物：
- 5) 絵画：エジプトの壁画に描かれるサイやカバなどの動物画→今は乾燥化が進んでナイル河中・下流域では見られないが、かつては高温・湿潤絵これらの動物がいたことが確認される

### 西アジアにおける環境変動

- 1) 氷河期：平均気温で数度低く、今日の中央アジアのステップと呼ばれる草原

地帯と同じ自然環境。

大型の草食動物が草原地帯に生息し、それを人々は狩猟。

## 2) 後氷期への移行

- a : ベーリング期 : 温暖・湿潤化→森林地帯の発生
- b : オールド・ドリユアス期 : 極端な寒冷化・乾燥化
- c : アレレード期 : 温暖・湿潤化
- d : ヤンガー・ドリユアス期 : 寒の戻り
- e : プレ・ボレアル期 : 冷涼・乾燥、大陸の氷河の融水による急速な海水面の上昇（因みにこのとき日本海にパルスとなって太平洋の海水が流入）
- f : ボレアル期 : 温暖・極端な乾燥化→農耕の開始

## 農耕の開始

シリアなどの地中海沿岸の西アジアに農耕が始まる

花粉データによる気候変動と植生の変化

(樹木花粉値が 50%を超える)

11,540±100bp : パレスティナ・フーレー湖

10,080±55bp : シリア西部・ガープ

5,460±120bp : ザグロス・ゼリバル

南から順に森林がこれまでのステップ地帯に出現するが、森林の卓越期間は 2~3000 年間に過ぎず、高温で乾燥した草原地帯の植生が変化していく。

西アジアにおけるムギやマメ類および中型の群れを成して生息する草食獣（森林：ブタ、草原：ヒツジ、山岳：ヤギ）への依存を高めた人間集団の出現。

牧畜は農耕よりも 2000 年ほど遅れて発生。

## ナトゥーフ期 (1.25 万~1.03 万年前)

ベーリング期 (温暖化) ~ヤンガー・ドリユアス期 (極端な寒の戻り)

現在よりも年平均で2～3℃低い。

パレスティナに森林帯、レバント北部に疎林帯出現

定住集落（村落）の形成（資7）

レバノン南東部のアインマラッハなどレバノン山脈西側斜面

10軒程度の円形竪穴住居群（下層）

中期になると軒数規模拡大

定住の原因は森林の出現→森林および周辺の植物（ドングリやムギなど）を利用

鎌の刃（資料7：E・F）

プラント・オパール（イネ科植物に含まれるガラス質の植物珪酸体）の付着

野生のムギの収穫に利用

石臼・石杵（資料7：A～D）

森林中のドングリ、周辺の疎林中のピスタチア・アーモンド、草原のムギの皮を剥いたり、実を割ったりするのに使用

半月形細石器（鏃）：狩猟用

未だ採集経済の段階に留まる

シリア北部ユーフラテス川沿岸のアブフレイラ遺跡のデータ

（資料8）

野生種の植物の種のみ出土

数多くの種類の植物種子（160種類以上）

イネ科・マメ類・果実類・根茎類・葉菜類・ほか

先土器新石器時代（1.03万～0.8万年前）

プレボレアル期～ボレアル期に相当：温暖化・乾燥化の進行

尖頭器（槍の穂先）

竪穴住居から方形プランの地上型住居（泥レンガと石による）へ

石核と押圧剥離技法の出現

大型尖頭器

先進的な鎌刃・磨製石器・石皿・土偶・土器

特定の植物を選定し、利用するようになる

PPNA：コムギ（野生種）とオオムギ（野生種）が1～2%から60%に増加

農耕の開始

PPNB：5種類の栽培種のイネ科植物（70%）と3～4種類のマメ類（15%）に依存

ヒツジやヤギの中型草食獣の家畜化

10ha以上の小都市の形成

175人/ha→1750人以上の小都市

↓

森林破壊の進行

レバント地方の空間的限界

10,000年前からの乾燥化の進行

草原地帯の可耕地の減少→農耕の行き詰まり

都市の形成→人口圧力→強制的な土地利用

空間的限界の露呈

文化の中心は大河流域へ